



完成予想パース



# 新タケタ橋 建設計画

東急建設株式会社 国際事業部 新タケタ橋作業所 作業所長

**鈴木晴久**  
Haruhisa Suzuki



## ミャンマー国の交通事情

ミャンマー連邦共和国では、民主化や規制緩和による外国資本の参入などにより、急速に経済が発展、都市化が進んでおり、その影響もあって、特にヤンゴン市内におけるインフラ整備の充実や慢性的な渋滞解消に向けた交通網の改善が喫緊の課題となっている。そのため、日本政府および国際協力機構（JICA）では、ミャンマー政府やヤンゴン市などに対して、都市交通マスタープランの策定や交通のボトルネックとなっている狭隘な橋梁の架け替えといったインフラ整備全般に対して、ソフト・ハード両面から幅広い支援に取り組んでいる。

## 当プロジェクトの紹介

本架け替え事業は元来、ミャンマー政府による国家重要事業の一つとして位置づけられており、ヤンゴン市バズンダウン川に架かるタケタ橋（バズンダウン川を渡ってヤンゴン市中心部とタケタ地区以東を結ぶルート上に位置する、一九六六年に建設された橋長二八四メートル、幅員八・五メートル（二車線）の橋梁）を架け替えることにより、同橋における交通容量の増加および混雑の改善を図るとともに、本橋は、日本政府や日本企業が協力して開発を進めているティラワ工

## 工事概要

業団地へのアクセスとして重要な要所の一つとなっており、ヤンゴン市東部と工業団地地域を結ぶ道路ネットワークの物流と旅客輸送の効率化に大きく貢献するものである。

当プロジェクトの本線総延長は六二〇メートルであり、その内、橋梁部が二五三メートル、盛土構造の道路が橋梁の両側に配置されている。新橋梁の本線は片側二車線の計四車線道路となり、併せて幅員二メートルの歩道も整備される。橋梁形式は、PC三径間連続エクストラード橋が二二〇メートル、PC単純箱桁橋が三三メートルとなっている。河川内下部工の基礎構造には、鋼管矢板井筒基礎（鋼管延長四八メートル）が採用されている。

当プロジェクトは、弊社、東洋建設株式会社および（株）IHインフラ建設の三社共同企業体にて受注し、二〇一五年四月に着工した。本工事には、本邦技術移転プログラムが組み込まれており、現在、ミャンマー国実施機関より九名の職員が参加し、プロジェクトの一員として従事している。

## 終わりに

工事着手より約二年が経過したが、ミャンマー国の民主化に伴い、国内の取扱い物量が急激



柱頭部施工状況



盛土工施工状況



鋼管矢板井筒基礎施工状況

に増加したことから、ヤンゴン港での通関手続きが慢性的に遅延したほか、昨年末より施行されたヤンゴン管区の重車規制による資機材調達の制限、ミャンマー国税法の改正など、工事着手時に想定していなかった様々な困難に直面してきた。これら想定外の事象に速やかに対応すべく、ミャンマー国実施機関および施工監理コンサルタントと協議を重ね、解決してきた。これから橋梁上部工施工の最盛期に突入していくが、品質、安全を最優先に考え、すべての関係者に満足してもらえる構造物を完成させるべく、工事を進めて行く所存である。